

リトアニア政治・経済月間情勢(3月)

概況

- 3選挙区でのやり直し・補欠選挙により、連立与党は5分の3絶対多数を超える87議席となり、社会民主党が第一党としての地位を強めた。
- グリボウスカйте大統領の欧州理事会出席やリンケビチュウス外相のEU関連会合出席が相次いだ他、近隣諸国訪問等の外交活動が精力的に実施され、EU議長国就任準備が加速化している。
- ビスギナス原発計画に関し、断念しないが性急には進めないとのプトケビチュウス首相の発言もあり、エネルギー戦略見直しの方向性はまだ見えず。作業部会の検討も、当初の予定より遅れている模様。

内政

【1日】ビリニウス裁判所は、検察からの労働党と正義と秩序党の合併を停止する要請を却下し、また労働党からの同党不正経理裁判担当検事を交代させる提案も却下。

【2日】自由中央同盟は党大会を開催し、メリアナス前内務大臣を党首に選出。リベラル・ムーブメント又はズオカス・ビリニウス市長の「Taip」党との合併を呼び掛けることも決定。

【3日及び17日(決選投票)】3選挙区でやり直し・補欠選挙が実施され、社会民主党2人、秩序と正義党1人が選出。これにより定足141が満たされ、連立与党87議席、野党合計54議席となった。

【10日】春季国会が召集。会期は6月30日まで。

【11日】独立回復記念式典が開催され、外国賓客としてヘイナルオマ・フィンランド国会議長及びグジェシュチャク・ポーランド国会副議長が出席。ビリニウス市は中心部での愛国主義者によるデモ行進を許可しなかったが、国家青年同盟は無許可の行進を実施。プトケビチュウス首相及び大統領顧問は、市中心部での行進を禁止すべきではないと発言。

【12日】国防省は、政府が2016年までに国防予算をGDP比1%まで増額することにコミットするよう要請。

【13日】憲法裁判所は、大統領の諮問に対し、憲法が改正されない限り、1990年3月11日以降の移民者には、二重国籍は認められないとの判断を示した。

【18日】デグティエネ国会副議長は、祖国同盟党首選に立候補しないと表明。同党首選にはクビリウス党首、スタンディス副党首、ランズベルギス欧州議員、アンドリキエネ欧州議員等が出馬予定。

【18日】ウスパスキフ労働党党首は同党の不正経理に関する法廷審問を3度病欠し、ビリニウス裁判所は同党首の審理を他党員の審理と分けて扱うことを決定。

【21日】プトケビチュウス首相は政権100日目の国会演説で、政府の優先事項を移民流出削減、雇用創出、エネルギー、住宅の暖房改修と説明。

【23日】世論調査で、グリボウスカйте大統領及びプトケビチュウス首相の支持率は上昇。社会民主党の支持も上昇傾向を維持。

【26日】ロシア友好議連のメンバーが決まり、会長にはウスパスキフ労働党党首が就任。

外交

【1日】モルドバを訪問中のリンケビチュウス外相はティモフティ大統領、フィラト首相、レアンカ副首相兼外務欧州統合相、ルプ国会議長他と会談し、同国の国家戦略目標(欧州統合、改革実施)達成に向けた努力を要請すると共に、モルドバのEU統合支援を表明。

【1日】ビタウタス・マグナス大学は、東欧地域で初の「台湾センター」を開設。

【4～7日】リンケビチュウス外相は、グルジア、アゼルバイジャン及びアルメニアを歴訪し、多国大統領や外相との会談で東方パートナーシップ首脳会合について説明すると共に、各国の欧州統合に対する支持を表明。

【5日】ビリニウスでリトアニア・ポーランド安全保障政策協議が開催され、NATOでの協力、軍備管理及び不拡散、原子力及びエネルギー安全保障を協議。

【6日】当地訪問中のリンデン・カール大帝賞委員長及びフィリップ・アーヘン市長はグリボウスカイト大統領(カール大帝賞受賞が決定)と会談し、同大統領が欧州の結束を強化し経済試練の克服に貢献したと高く評価。

【6～7日】当地訪問中のウェーカー独軍司令官はオレカス国防相及びポチウス軍司令官と会談し、オレカス国防相は両国の防衛協力を高く評価。

【11日】リンケビチュウス外相は、EU外相理事会等に出席し、ロシアとの戦略的パートナーシップ構築はロシアの行動に対応して進めるべきと強調。

【12～18日】マリのEU訓練ミッションに参加する2名のリトアニア要員が、フィンランドでの北欧軍事訓練教官チームの事前訓練に参加。24日、同要員2名はマリへ到着。

【13日】リンケビチュウス外相はエストニアを訪問し、イルヴェス大統領、アンシブ首相、パエト外相と会談を行い、リトアニアのEU議長国、ユーロ導入、エネルギー等について協議した。

【14日】グリボウスカイト大統領はフランシスコ新法王の選出に対する祝辞を発出。18～19日、大統領は新法王就任式出席のためバチカンを訪問。

【15日】グリボウスカイト大統領は欧州理事会に出席し、EUはロシアと対等な条件で包括的かつ法的強制力ある合意を目指すことが重要、エネルギー分野での協力は開放性と透明性が不可欠と発言。

【15～17日】リンケビチュウス外相はブリュッセル・フォーラムへ出席し、リトアニアのEU議長国、東方パートナーシップ、EU拡大について協議。

【16日】国会でナゴルノ・カラバフ友好議連が創設されたことに対し、アゼルバイジャン国会は当国アゼルバイジャン友好議連会長に対しその廃止を働きかけるよう要請し、外交ルートでも抗議の口上書を手交。

【18、19日】米国のミサイル防衛システムの変更声明に関し、グリボウスカイト大統領及びオレカス国防大臣は、同決定による欧州の安全保障への影響はないとコメント。

【19日】リンケビチュウス外相はブリュッセルでアシュトンEU外務・安全保障政策上級代表と会談し、EU議長国期間中に欧州対外活動庁と効果的な協力を行うと発言。

【19日】当地訪問中のバートラム・デンマーク国防司令官は、オレカス国防相及びポチウス軍司令官他と会談。4月のヘケロップ国防相の来訪についても協議。

【19～20日】リンケビチュウス外相はブリュッセルでデ・ヒュフト貿易担当欧州委員他と会談し、EU議長国期間中に日本及び米国とのFTA交渉に格段の関心を払うと発言。

【20日】シコルスキ・ポーランド外相は、リトアニアのポーランド系少数民族問題の解決は両国協カプロジェクトの推進に資すると発言。リンケビチュウス外相は2つの問題はリンクしないとコメント。

【22日】リンケビチュウス外相はダブリンでのEU非公式外相会合に出席し、シリア情勢や緊急時の対応、民主化、紛争防止におけるEUと地域機関の協力について協議。

【25～27日】リンケビチュウス外相はニューヨークを訪問し潘基文国連事務総長と会談した他、2014～15年の安保理非常任理事国選挙への支持要請活動を実施。

【28日】グリボウスカイト大統領は当地訪問中のスウイング国際移住機関(IOM)事務局長と会談。リトアニアが外交使節を持たない国におけるIOMとの協力覚書が署名。

【29日】NATO領空監視ミッションはバルト海上空を飛空するロシアの軍用機2機を護送。

【29日】グリボウスカイト大統領及びオレカス国防相は、リトアニアのNATO加盟9周年に当たり、当国の安全保障は強化された、新たな課題に貢献していくとの声明を発出。

経 済

【1日】個人破産法が施行され、2万5千リタス以上の負債を抱える者は自己破産申告が可能となった。

【11日】リンケビチュウス外相はEU総務理事会で、財政安定と経済成長の実現にはEUが今まで合意した措置の実施が重要と発言。

【14日】グリボウスカイト大統領は欧州理事会で、経済成長促進政策及び失業対策の実施が重要であり、緊縮財政か経済成長かの議論は時代遅れと発言。

【18日】欧州統計局は、リトアニアは2012年の年間輸出増加量(前年比14%増)でEU内3位、輸入増加量(前年比10%増)では2位と発表。

【22日】統計局は2012年の移民に関する統計を発表し、移民流出が流入を上回る一方、2010年以降流出移民は減少し帰国者が増加していると分析。主な移民先は英国、アイルランド、独、ノルウェー。

【25日】シャジュウス財務大臣は、2015年のユーロ導入に関する作業部会は4月中旬に提案を提出し、政府は7月までに承認すると述べた。

【26日】フィンランド系Pohjola銀行が当地で銀行業務を開始。

【27日】統計局は、2012年の新規企業登録数は前年比43.1%増加し、その約半分は太陽光発電関連企業であったと発表。

【28日】ビリニユスでバルト3国財務大臣会合が開催され、ユーロ圏問題、バルト地域の経済情勢、リトアニアEU議長国時の優先事項、EU構造基金について協議された。

【29日】IMFはリトアニアの今年の経済成長率は3%に下がるが、依然としてEU内で高い成長率となる、輸出の鈍化が主な要因であり、当国製造業の能力利用率の改善は進んでいると分析。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【1日】マシューリス・クライペダ石油社長は、建設中のLNGターミナルへの国内外企業や政府からの関心が高まっていると発言。

【5日】シコルスキ・ポーランド外相が当地誌とのインタビューで、リトアニアはLNGターミナル建設とポーランドとのガスパイプラインとの両立は困難であり、どちらかを選択すべきと述べたのに対し、プトケビチュウス首相及びウドレナス大統領補佐官はこの発言に苦言を呈した。

【5日】メルテン・ロスアトム海外事業社副社長は当地誌とのインタビューで、カリニングラード原発及びイグナリナ原発廃炉に関し、当国と透明性と責任がある協力関係を築きたいとコメント。

【6日】ネベロビッチ・エネルギー大臣はブリュッセルで、エストニア、ラトビア、フィンランドのエネルギー大臣及びポーランド代表と共にエッティンガー・エネルギー担当欧州委員と会談し、ガス関連インフラの整備等につき協議。

【7日】当地紙とのインタビューで、プトケビチュウス首相は、原子力エネルギーそのものは支持するが、現在のビサギナス原発計画には反対とコメント。同首相は、12日の野党祖国同盟との会合でカリニングラード原発には参加しないと述べ、19日には露ビジネス誌とのインタビューで、ビサギナス原発は断念しないが性急には進めない、カリニングラード及びベラルーシ原発には不参加と発言。

【12日】ネベロビッチ・エネルギー大臣は、ロンドンでの原子力の持続可能な将来に関する非公式閣僚会合に出席。

【20日】国会環境委員会は、シェールガス採掘に関する公共入札を必要な法改正が終了するまで停止すべきと提案。21日にはプトケビチュウス首相は、法改正の終了後、5月までには米シェブロン社とのシェールガス採掘に関する合意に署名できる見込と発言。

【25日】新任のマッカーシー当地米国大使は、ネベロビッチ・エネルギー大臣との会談で、エネルギー市場自由化に対する米国の支援を表明。

【28日】ネベロビッチ・エネルギー大臣は、ロスアトム社からクルオニス水力発電所からの電力の増設と引き替えにカリニングラード原発株式の25%を得るとの提案を受けたとの野党の憶測を否定。

日本との関係

【7～8日】内田和成・早稲田大学教授は、ビリニュス及びカウナスの大学で日本の企業に関する講演会を実施し、多くの出席者から活発な質疑を受けた。

【12日】外務省で東日本大震災2周年関連行事として日本人写真家・濱田英明氏の写真展開会式が開催。約60人が出席し、白石大使及びゲルマナス外務副大臣が挨拶を行った。本写真展は、今後各都市を巡回予定。

【10～15日】アウシュトレビチュウス国会副議長及びバルブオリス外務省環大西洋協力・安全保障政策局長は、日・バルトセミナー出席のため訪日。アウシュトレビチュウス副議長は、12日に山崎参議院副議長、13日に中曽根日リトアニア友好議員連盟会長と会談した。

【14日】当館はビリニュス市内ジュベリノ高校で、リトアニア人講師による生け花デモンストレーション・ワークショップを中心とした教育広報事業を実施。66名が参加した。

【20日】国防省は、アフガニスタン・ゴール県での日本の草の根無償資金協力案件署名式に関するプレスリリースを发出。

【21日】白石大使はビタウタス・マグナス大学で「第二次世界大戦後の日本外交」と題する講演を実施し、同学政治外交学部の学生等約30名が出席。

【27日】白石大使公邸において、帰国留学生との交流会を実施し、バイツクス帰国留学生会会長を始め約30名が参加。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。